

R4 DX評価アンケート（対象者：4年生小児シミュレーション研修希望者 11名 時期：10月）

1..小児看護におけるシミュレーション研修で学びたいこと(個人目標)を記載して下さい

1.未経験の技術習得や知識の定着

- ・点滴管理や吸引など今まで演習などでやってこなかった技術に関して、知識としても身に付いてないかなと思うので実際にやりながら身につけていきたい。
- ・点滴や経管栄養の方法を実践することで理解すること。
- ・今回のシミュレーショントレーニングでは、実習で受け持った子とは年齢が異なるので、事前課題をもとに知識と経験を繋げられるようにしたい。
- ・点滴や経鼻胃管等の手技獲得

2.子どもに合わせた技術の習得

- ・その子どもに合わせたかわりをしたり、臨機応変に対応しながら正しい手法で技術を発揮できるようにする。
- ・シミュレーション研修を通して、小児患者に対する看護技術を実践する。
- ・シミュレーションを行う中で、小児のバイタルサインに必要な技術や小児への関わり方を学ぶ
- ・どんな年齢でも対応できるスキルを身につけたい。
- ・乳児期の子どものバイタルサイン測定と安全に正確に測れる技術を学ぶ

3.知識と技術の統合

- ・根拠を持って知識を身に付け、学んだ技術を工夫しながら実践に移せるようにする。
- ・バイタルサイン測定では成長発達に合わせた声掛けをしながら、正確に測ることが出来るようになること。
- ・演習を通して学びを共有し、事前課題で学んだ知識と技術を自身の経験と統合する。

4.アセスメント力の向上

- ・学生間で話し合いや実践に積極的に取り組み、アセスメント力や小児看護技術力を向上させること。
- ・小児の年齢・発達段階に応じた適切なアセスメント力を身に付けること。
- ・子どもの安楽を考えたケアの実践について学びを深める

2-1)小児看護における知識の課題について記述してください(実施前)

1.疾患知識

- ・症状とそれに合わせた観察項目
- ・講義等を通して身に付けた知識の整理や関連づけができていない。

2.小児の成長発達

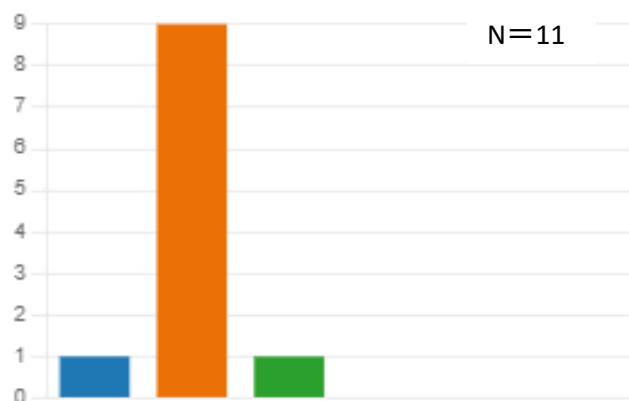
- ・実習で受け持った子と異なる発達段階の子どもへの関わりなどに関する知識が不足していて、課題だと感じる。
- ・バイタルサイン測定では基準値や測定器具の年齢ごとの変化、成長によって説明方法の工夫についての知識が不足している

3.安全管理

- ・患児は自身で安全管理難しく予想外のところで事故が起きやすいため安全管理方法についても不安がある

2-2).研修によって、小児看護における知識の課題は解決しましたか

| | |
|-------------|---|
| ● 非常にそう思う | 1 |
| ● そう思う | 9 |
| ● ややそう思う | 1 |
| ● あまりそう思わない | 0 |
| ● そう思わない | 0 |
| ● 全くそう思わない | 0 |



2-3).解決した知識の課題内容(実施後)

1.疾患知識

- ・気管支喘息の事例でのアセスメントを通して、知識を整理できた
- ・気管支喘息を持つ子どもの呼吸状態をアセスメントをする上で、必要な観察項目や呼吸状態に影響を及ぼす場面について改めて確認することができた。
- ・紙面だけの学習で覚えきれていない知識が、実際に演習することで頭に入りやすかった。

2.技術に関する不足する知識

- ・自分が苦手とする部分や気を付けなければならない部分に関して学習することが出来た。
- ・小児専用の点滴ルートや小児ならではの注意点(自身で点滴の漏れやルートの屈曲など異常を正確に伝えることが出来ないため頻りに看護師を含め大人たちが刺入部から点滴ルート、薬剤量などについて確認する必要があるなど)について学ぶことが出来、大変良い学びとなった。
- ・輸液ポンプや吸引器具、経管栄養の使用法やそれらを使ったケア時の注意点について知ることができた。
- ・国試にも出るような、チューブの挿入の長さややり方などを学ぶことができた。
- ・フィジカルアセスメントの方法
- ・子ども、母親への声掛けの仕方、関わり方

3.看護展開

- ・喘息の子どもについて事前学習で学んできた内容と、実際に情報収集を行って得た情報を関連づけてディスカッションすることで、アセスメントの方法や実施、評価、報告の仕方などを身をもって学ぶことができた。
- ・処置前後の情報収集やアセスメントに必要な情報をディスカッションすることで、情報収集の優先度や必要な処置を考えることに繋がった。

4.報告・連絡・相談

- ・事例検討では9カ月の喘息の患児の呼吸状態の観察・ケア・報告では、実習とは違い、より就職後をイメージしつつ実施することで、伝わりやすい報告の順序について理解することが出来た。
- ・たくさんの情報から優先順位を考慮して報告することがとても大変で、あまり思うようにできなかったため、繰り返し練習していきたいと思った。

5.グループダイナミクス

- ・メンバーで意見を出し合っていくことで、知識を深めることが出来た。

3-1)小児看護における技術の課題について記述して下さい(実施前)

1.コミュニケーション技術

- ・バイタル測定時など子どもに何をするか説明する時にどんな言葉を使えばいいか、咄嗟に出てこない。
- ・年齢に合わせて説明・方法を工夫しながら行う事に難しさを感じたため、患児との接し方についても課題がある
- ・実習で担当したのが話せる年齢の子だったので、乳児の子の看護ができるかが課題である。

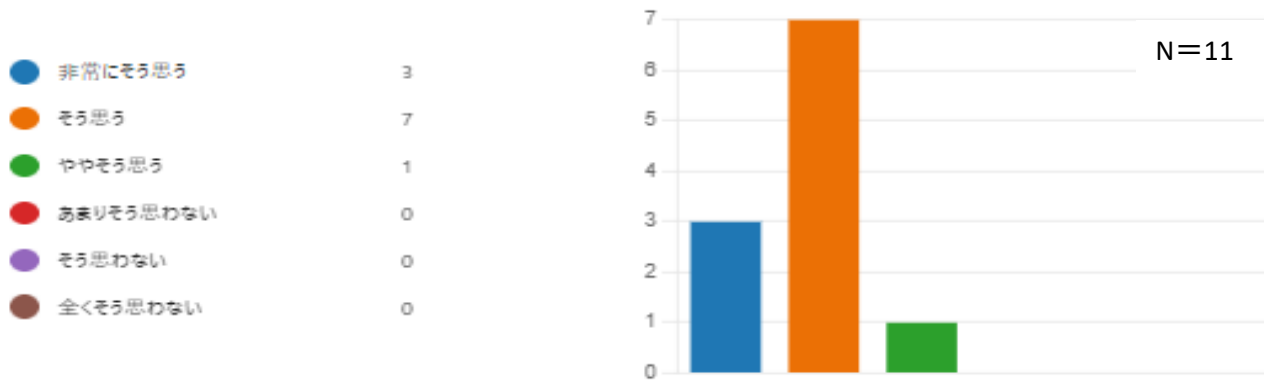
2.未経験や経験不足な技術

- ・点滴管理や吸引など演習でも実際にやったことがない技術の手技に不安がある
- ・教科書等で技術について学習したが、実践に移すのには不安がある
- ・バイタルサイン測定をはじめ、点滴やプレパレーション、オムツ交換など様々な技術に課題がある
- ・知識は教科書などから補うことができるが、技術は経験してみないとわからない部分が多いため、経験が不足していると感じる
- ・子どもへのプレパレーションの仕方

3.子どもに合わせた技術

- ・子どもを相手に臨機応変な対応をし、正確な技術を発揮できない。
- ・乳幼児など処置や検査への理解が困難な子どもに対して、安心できる環境を整えたり認知・発達段階に応じた分かりやすい説明を行い、治療を円滑に進める工夫を行う難しさがあること。
- ・人形で練習しても、実際に動いたり嫌がったりする子どもを測定するのでは大きく異なり、不安が残る。
- ・拒否された時の対応の仕方

3-2) 小児シミュレーション研修によって、小児看護における技術の課題は解決しましたか



3-3) 解決した技術の課題内容

1. コミュニケーション技術

- ・ねぎらいの言葉をかける、観察した患児の状態や今後行うの処置の説明をきちんと行うことは基本手な部分ではあるが、そういう積み重ねや態度で信頼関係は構築されるため、大切にしていきたいと思った。
- ・小児では自身の状態に対し正確に説明することが難しく、治療器具に対して恐怖心を抱きやすいため、母親からの情報収集と、ケアをするためには母親の協力を借りて患児を出来るだけ安心させつつ実施することが重要であると学んだ。
- ・コミュニケーションの面では、小児看護の特徴である家族への関わりという点で親への分かりやすい説明をする配慮の必要性を改めて感じる事ができた。

2. 未経験や経験不足な技術の習得

- ・吸引や点滴管理、経管栄養の手技や注意点について実際にやりながら学ぶことができた。
- ・今まで実践したことのない技術だったが、基礎から注意点やポイントまで、細かいところまで指導していただけたため、実践に自信がついた。子どもに合わせた対応についてもイメージしながらできた。
- ・吸引、経管栄養、点滴管理について初めて実際の物を使用しつつ、体験することが出来たため、自分が苦手とする部分や気を付けなければならない部分に関して学習することが出来た。
- ・咳や鳴き声リアルで、実際に呼吸音心拍も聞くことが出来て、よい演習になりました。
- ・吸引や移管の挿入、点滴管理など、成人の演習でも出来なかった部分なので実際にやってみることで、臨床における具体的なイメージを持つことができた。

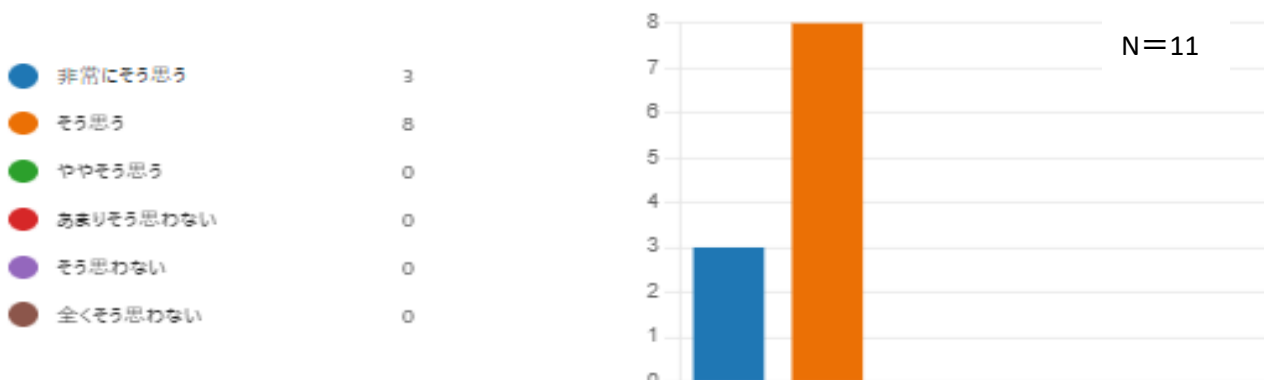
3. 子どもに合わせた技術

- ・事例での演習では、子どもの体調が悪くなく、不安でいっぱいな母親の思いを受け止め、声掛けを行いつつも正確に泣いている患児のアセスメントやバイタルサインの実施をすることは、看護師役二人で臨んだとしてもとても大変だった。
- ・バイタルサインの測定だけではなく、吸引、経管栄養、点滴管理の手技を模型を使用して実践することで、実際の小児患者に近い形で処置の練習ができ、苦痛を伴う処置の難しさであったり、子どもや母親への声掛けの必要性であったりを実感することができた。

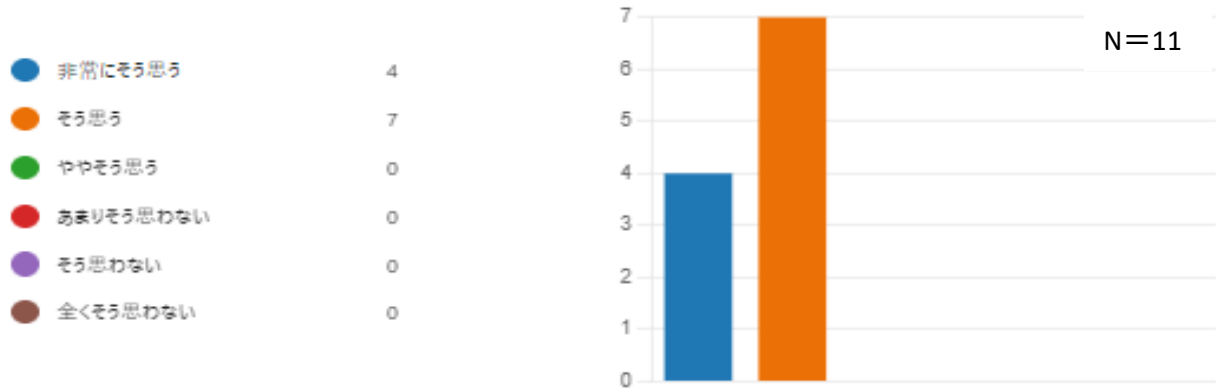
4. 報告、連絡、相談

- ・SBARをつかった報告方法

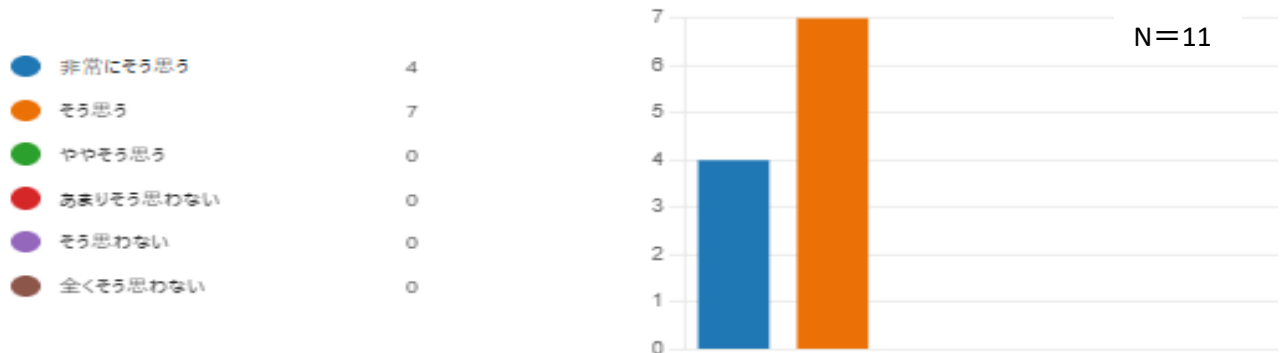
5. 小児シミュレーション研修を行って、想定した状況にある患者のイメージができましたか



6.小児シミュレーション研修を行って、これまでの学習(概論・方法論・演習)と関連付けができましたか



7.小児シミュレーション研修による体験が、統合実習に役立ちましたか



8.上記の質問について、具体的に役立った点について記載してください

1.家族への対応

・病棟実習の前に今回のシミュレーション研修を受けることができたなら、お母さんへの声掛けやケア中に泣き出してしまった患儿への対応など活かすことができる場面が多かったなと感じた。

2.リアルな実習体験

・臨床の現場を意識して、知識や技術を身につけることができた。

・臨床にでた時の不安ばかりが残っていたが、臨床で行う処置の方法などを具体的にイメージすることができた。

・小児病棟で実践されている処置の手技を実施することで臨床現場での処置の関わり方や子どもの反応が想像しやすくなった。

・実際に呼吸音、心拍の聴取の練習が出来た

・実習に行けていても、チューブや点滴など、触らせてもらえることはなかったので、大変イメージしやすかった。

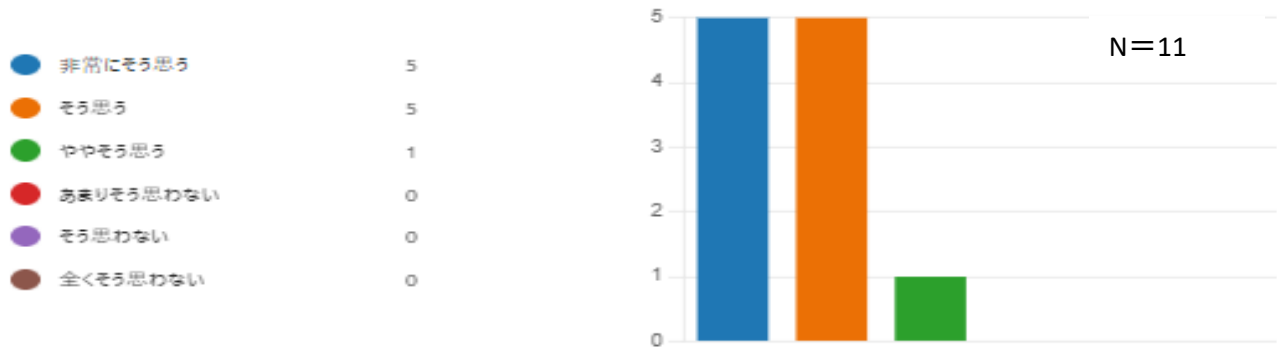
3.自分の課題に対する学び

・自身が進みたい病棟(領域)であり、そこでの勤務を視野に入れて、研修前に実際に物品や手順について経験できたことにより、自分に足りていない部分や、練習が必要な部分を知ることが出来たため、統合実習として参加することができ、大変良い学びとなったと考える。

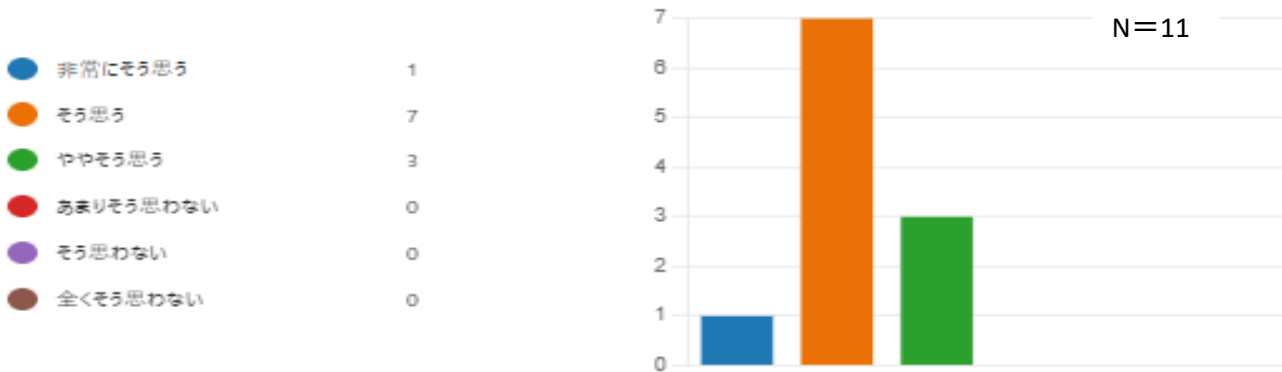
・具体的な事例とシミュレーションを用いて「アセスメント→援助→報告」のような実際に就職して行う場面を一通り学ぶことができ、来年までの課題が把握できたため非常に役立った。

・領域別実習では学びきれなかった技術を、今回の実習で身につけることができた。

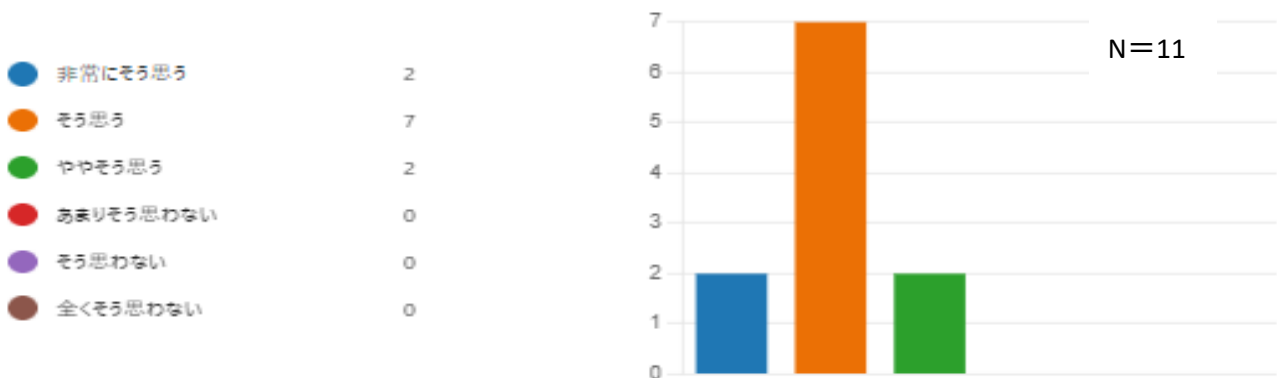
9.小児シミュレーション研修を行って、情報収集の練習になりましたか



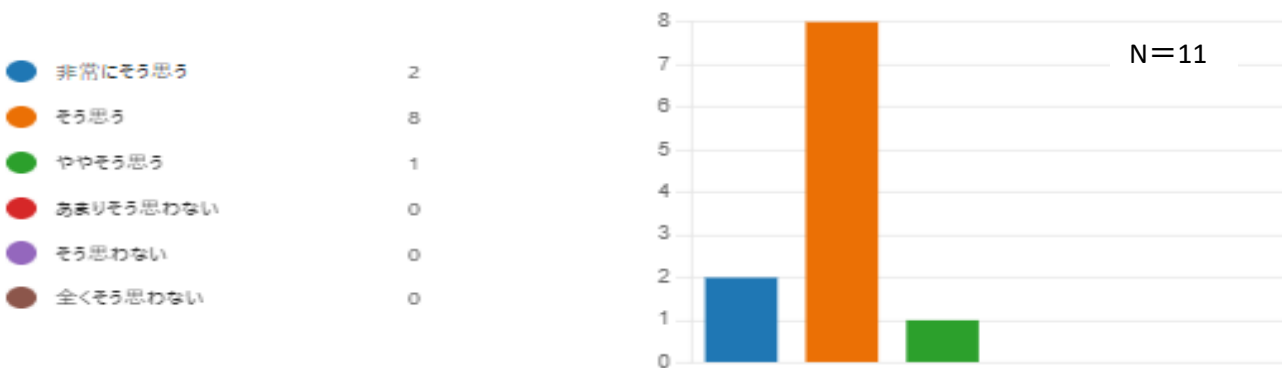
10.小児シミュレーション研修を行って、必要かつ適切なアセスメントはできましたか



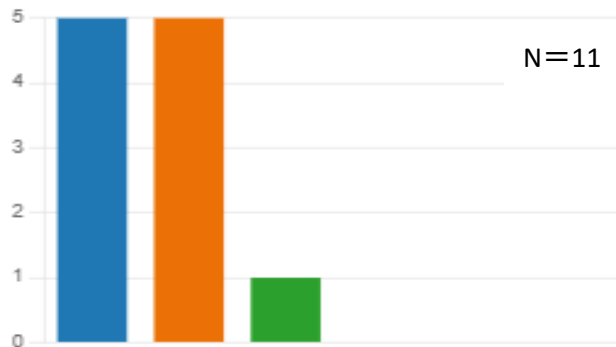
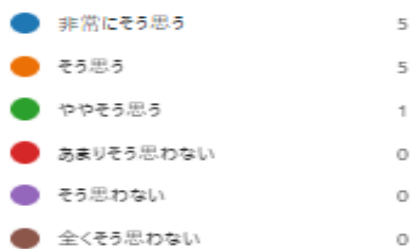
11.DXプログラム(小児・老年看護学実習 VR演習)を行って、コミュニケーション方法の練習はできましたか



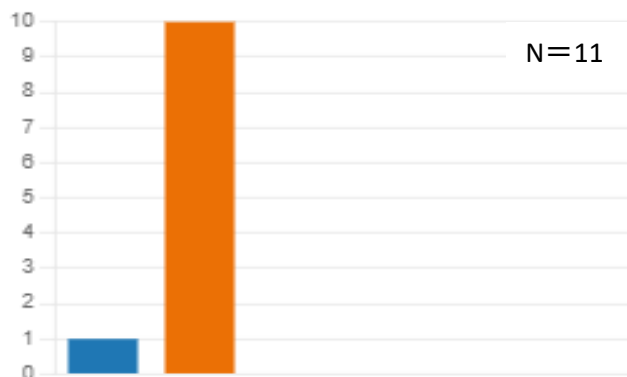
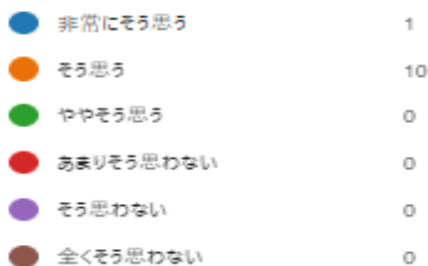
12.小児シミュレーション研修を行って、関わりの意図を考えられるようになったと感じますか



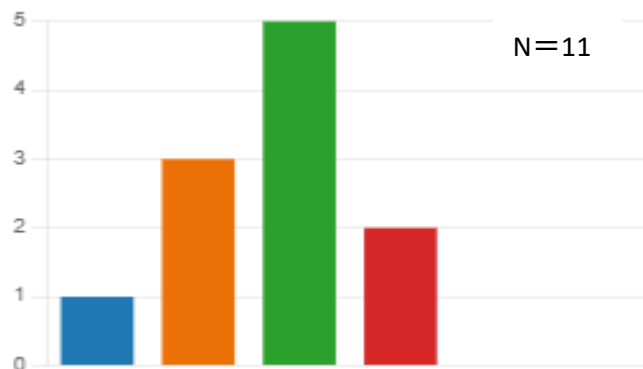
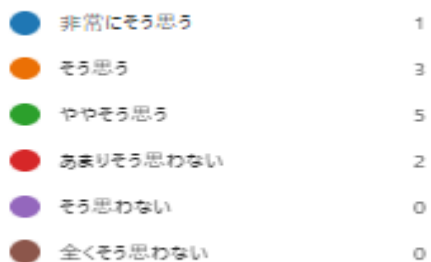
13.小児シミュレーション研修を行って、リアリティのある実習経験はできましたか



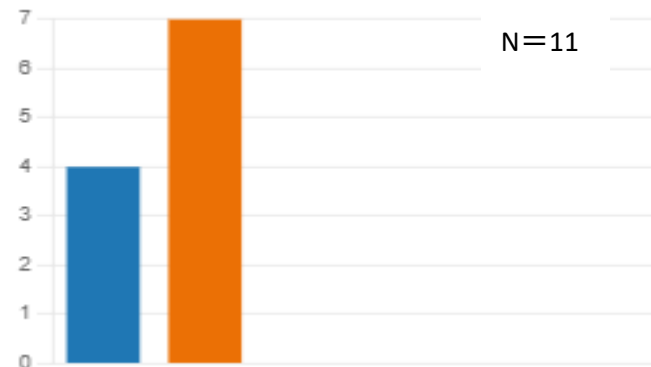
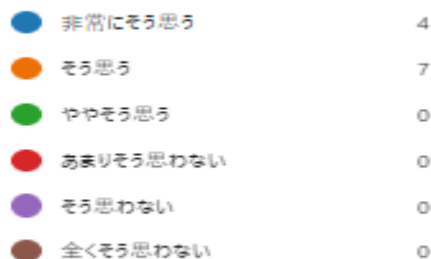
14.小児シミュレーション研修を行って、実習目的は一部達成できましたか



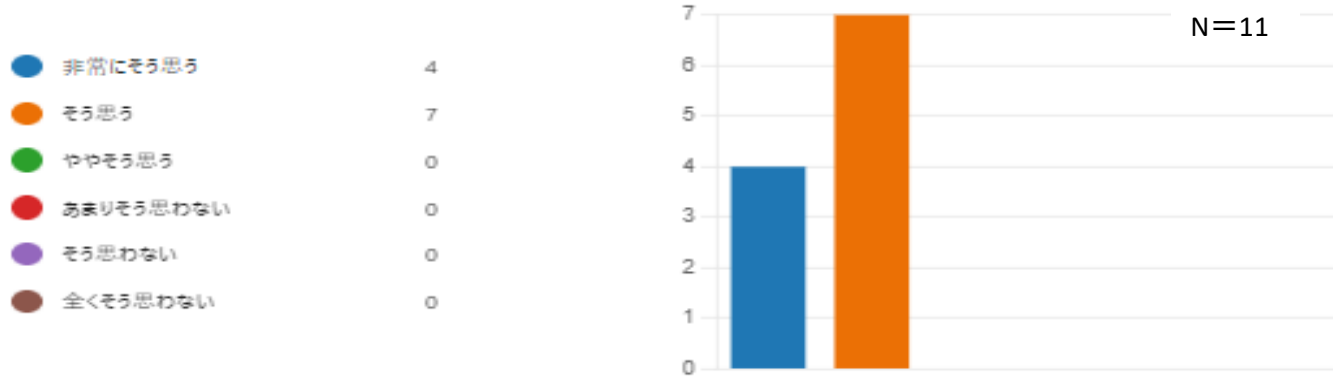
15.小児シミュレーション研修を行って、看護師としての自分の長所が明確になりましたか



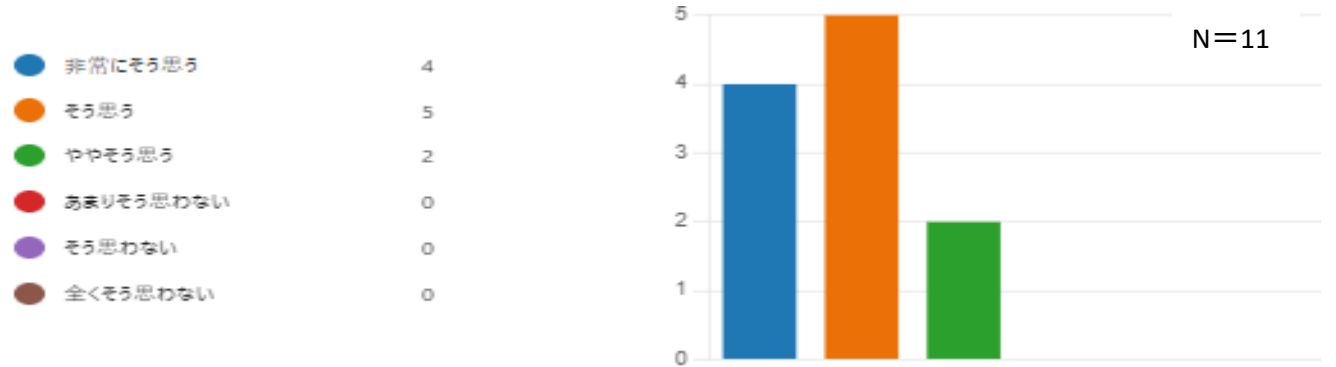
16.小児シミュレーション研修を行って、看護師としての自分の短所が明確になりましたか



17..小児シミュレーション研修を行って、看護師としての自分の不足しているスキルが明確になりましたか



18.小児シミュレーション研修を通して、自分の希望分野は明確になりましたか



19.現時点での希望分野は何ですか



20.小児シミュレーション研修の利点について記載してください

リアルに近い演習

- ・バイタル測定中などに泣き出したり咳き込んだりすることがあるので、今までよりも実際の場面に近い環境で演習することができると思う。
- ・肺雑音や呼吸音の強さなども動画で聴くよりもはっきり聴取することができるので実習前にできたらいいなと感じた。
- ・特に吸引を練習したモデルは泣き声が聞こえたり、バイタルの変化と言った反応があるものであり、より実践をイメージしつつ、練習することが出来た。
- ・VRや普通の演習では体験することのできない、実際の子どもに近い状態で看護実践ができること。
- ・VRより実際の子どもの様子に近い形で技術練習をできる点が人形を用いた講義の良い部分だと感じた。

手技の獲得

- ・実際に使う器具を使用しつつ、手技を確認することが出来るため、就職後看護を行う上でとても貴重な経験となった。
- ・実習やコロナ禍での演習では経験することが難しかった吸引や経管栄養の実践、輸液ポンプやシリンジポンプを触ることができ、非常に学びになったこと。
- ・リアリティのある状況で技術を練習することが出来る。
- ・落ち着いて、子どもの援助を行うことができた。(実際の子供ほど暴れることがないため)

実践力の向上

- ・子どもに合わせた技術を身につけることができ、臨床を意識して具体的な情報収集やアセスメントを行い、思考する力と実践する力が身についた。
- ・実際にモニターなどと連動したモデルを使って実践的な演習ができること
- ・実際の子どもの状況を想定しながら処置の練習ができる。状況に合わせて臨機応変に対応する必要性を実感することができる。

就職への不安軽減

- ・就職してからもこのような研修があるのだと思うが、在学中からすることで不安を軽減した状態で就職できると感じる。
- ・リアルなシュミレーションや今まで行ったことのない看護技術を学べたことで就職後のイメージが持てた
- ・今まで講義で学んできたことを活かし、就職後に向けて準備ができる、素晴らしい研修であり大変ためになったので特に欠点は思いつきません。

21.小児シミュレーション研修の欠点について記載してください

1.個別性への対応

- ・実際のそれぞれ個性のある子どもに対する技術を身につけることは難しい。
- ・実際に動いて嫌がったりしない
- ・実際の子供よりも、泣いたり暴れたりする程度が落ち着いているので現場の難しさには敵わない部分。

2.コミュニケーション技術

- ・実際の患者さんではないので、予測できないコミュニケーションなど、そういった点では臨地実習も必要であると考え。
- ・実際の人間ではないため、児とのコミュニケーションがとれない

3.観察

- ・皮膚色や表情など分かりづらいこと。

22. 今回の設備やそれらを用いた教育における改善点について記載してください。

1. 少人数によるグループ学習

・少人数ではきっちり学ぶことができたが、大人数で行うには難しいと思う。

2. 収集した情報の正確さ

・副雑音の有無や左右差などの呼吸音の想定を最後に教えていただけると、聴取した情報の正否が判断できるので自身の技術の評価がしやすかったです。

23. 今後必要と考える小児看護におけるDX教育について記載してください。

1. アセスメント力の向上

・子どもの発達段階や疾患に応じた看護知識・技術やアセスメントの習得

2. 未経験技術の習得

・点滴、経管栄養、吸引方法は大変なためになった、追加して検査のプレパレーションを体験したい

・模型を用いた情報収集や処置の技術演習。

3. 対応力向上

・子どもの動きがより自由自在なものになると、現場での実践につながると感じた。

・嫌がってしまう子どもに対してどのように声掛けを行うことで検査に臨めるようになるのかは経験による差が出る部分であるため、体験してみたいと思った。